

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-810	22-057	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption patterns and the risk of sarcopenia: a population-based cross-sectional study among chinese women and men from Henan province 飲酒パターンとサルコペニアのリスク：河南省の中国人男女における地域住民を対象とした横断研究		
<b>執筆者</b>		
Zhai J, Ma B, Qin J, Lyu Q, Khatun P, Liang R, Cong M, Guo L, Kong Y.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2022 Oct 11;22(1):1894. doi: 10.1186/s12889-022-14275-6.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒パターン、飲酒頻度、サルコペニア、関連		36221080
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>サルコペニアは臨床的に重要な症候群であり、健康的、社会的、経済的に重要な意味を持つ。飲酒はサルコペニアを加速させる修正可能な行動因子の一つであるが、中国人集団では飲酒パターンとサルコペニアのリスクとの関連は十分に検討されていない。本研究は飲酒パターン（飲酒量や頻度を含む）とサルコペニアまたはその要素との関係を評価した。</p> <p><b>方法：</b>中国河南省で栄養と健康に関する情報を収集するための横断研究を計画し、2020年11月に3つの地域に住む25-75歳の合計680人を調査した。サルコペニアは、2019年に更新されたAsian Working Group for Sarcopeniaの基準に従って定義した。また、腕と脚の徐脂肪体重(kg)を身長(m)で除したskeletal muscle mass indexにより、女性5.7kg/m<sup>2</sup>以下、男性7.0kg/m<sup>2</sup>以下を低筋肉量と評価した。飲酒量は1日あたりのグラム単位で計算し、男女の推奨量を基に3群（非飲酒者、軽度～中等度飲酒者、多量飲酒者）に分けた。飲酒頻度は、非飲酒、週1回未満、週1～4回、週4回以上の4群に分けた。多重ロジスティック回帰分析を用いて、サルコペニアが飲酒パターンと関連するかを多重調整後の95%信頼区間(CI)付きオッズ比(OR)により評価した。</p> <p><b>結果：</b>男性411人（平均60歳）、女性269人（平均58歳）が解析対象となった。男性では、飲酒パターンと低筋肉量および筋力低下リスクとの間に正の関連が認められた。非飲酒者に対する1日あたり25gより多くエタノールを摂取する男性の多変量調整後オッズ比は、低筋肉量(OR3.99; 95%CI, 1.10-17.05)、握力が低い(OR3.39; 95%CI, 1.33-9.92)で高かった。同様に非飲酒者に対する週に4回以上飲酒する男性の多変量調整後オッズ比は、低筋肉量(OR4.99; 95%CI, 1.24-25.55)、握力が低い(OR3.37; 95%CI, 1.40-8.74)で高かった。男性では飲酒パターンとサルコペニアや歩行速度との関連は認めず、女性では飲酒パターンとサルコペニアや他のあらゆる要素との関連を認めなかった。</p> <p><b>結論：</b>多量の飲酒と頻繁な飲酒は、の中国河南省男性における筋肉量および筋力の低下の重要な危険因子である。</p>		